

高知県労連

N o . 1 3 6
 発行：高知県労連書記局
 住所：高知市丸ノ内2-1-10
 〒780-0850 高知城ホール3階
 [TEL]088-872-3406
 [FAX]088-822-7969
 ホームページもご覧下さい。



災と原発事故。県労連からは牧書記次長が一週間にわたり現地報告ツアーに取り組み、確かな手たえを感じた一年間でした。

何となくとも三月の東日本大震災と原発事故。県労連からは牧書記次長が一週間にわたり現地報告ツアーに取り組み、確かな手たえを感じた一年間でした。

組合員のみなさん、新年あけましておめでとございます。昨年はずなごりから広がりに毛ントーに取り組み、確かな手たえを感じた一年間でした。



執行委員長 西山潤

私たちは九九%です

平和のとおりくみでは高知県軍事基地化を許さない共同行動が広がりました。田口書記長・畑山副委員長が参加した日本平和大会では辺野古の新基地建設を許さない闘いが沖縄から全国に広がりました。

昨年はずなごりから広がりに毛ントーに取り組み、確かな手たえを感じた一年間でした。

災と原発事故。県労連からは牧書記次長が一週間にわたり現地報告ツアーに取り組み、確かな手たえを感じた一年間でした。

県労連 第24回中央委員会

日時：1月22日(日) 10時より

場所：東部健康福祉センター

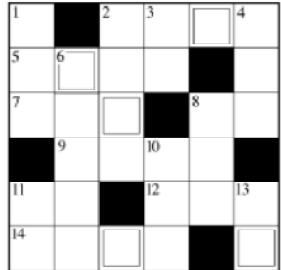
議題：春闘方針案
その他



針路

昨年は龍年。昇り龍のごとく勢いよく賃上げと雇用の確保に取り組み、内需主導型の経済に転換させましょう。全国最低の時給六四五円の最賃を千円以上にしましょう。若者にも高齢者にも安心して働ける場を確保しましょう。さらにオール高知県でTPPに反対しましょう。伊方原発の再稼働を許さず、原発ゼロをめざしましょう。多くの闘いに意気高くとりくみ、組織拡大につなげましょう。

ともに頑張ることを執行部一同、みなさまにお誓いして、新年のご挨拶といたします。今年もよろしくお願いたします。



クロスワードパズル

カギを解き二重枠に入る文字を並べてできる言葉は何？
 「タテのカギ」①公立の対 ②打ち解けた話し合い ③エピソードを勧める ④公園の

【ヨコのカギ】②戦 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

①〇〇のうち月が ②戦 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭

クロスワードパズル 図書券プレゼント チャレンジ

《応募方法》
 クロスワードの答えと、機関紙の感想、組合名、郵便番号、住所、氏名、年齢を記入の上、県労連書記局宛にお送り下さい。

抽選で二名様に図書カードをプレゼントします。
 (ハガキ、FAX、eメール) 締め切りは翌月の二十日になります。

当選者の発表!

135号・クロスワードパズルの答えはウシシユウミカンでした。当選者が抽選で決定しました。おめでとございます。当選を逃した方もドン・ドン挑戦してください。

《当選者》
 岡本 由美さん (香美市職労)
 吉村 裕美さん (越知町職労)
 森本 健一さん (公務公共一般)

年男・年女

今年辰年。干支の中で唯一、架空の生き物で、神様のいとされています。辰年生まれの人には、目下の人の面倒をよく見るタイプが多いそうです。そんな辰年の年男・年女に今年の抱負を伺いました。

人生を語り終えたり道半ば 小澤 幸次郎

『老いてこそ輝け』『日々死を覚えよ』 終わりなき「社会変革」と「自己発達」をめざして七十二歳の青春を生きて抜いてゆきたいと思う。出会と別離(念)喜びと悲しみ(希望) 数え切れないほどの人たちの顔が浮かんで消えていきます。自分が持つ生涯治らない三つの病氣と仲良くしながら、『神と仏の信仰に活かされ』『運動と仕事とボランティア活動』に支えられて一日一日を歩み続けます。

『それゆえに明日のことを思わずらうな。明日は明日自身がいよいよわすらうであらう。一日の苦勞はその日一日で充分である。まず神の国と神の義とを求めよ。そうすればすべてが与えられる』(主イエスの山上の説教)



『老いてこそ輝け』『日々死を覚えよ』 終わりなき「社会変革」と「自己発達」をめざして七十二歳の青春を生きて抜いてゆきたいと思う。出会と別離(念)喜びと悲しみ(希望) 数え切れないほどの人たちの顔が浮かんで消えていきます。自分が持つ生涯治らない三つの病氣と仲良くしながら、『神と仏の信仰に活かされ』『運動と仕事とボランティア活動』に支えられて一日一日を歩み続けます。

新春川柳コナ

強敵を吹かぬ川柳コナ 龍のこた (幸泉)

東北と絆をつなぐプラ注人 (高橋理)

県東部光の輝くジオパーク (高橋理)

ペンギンは躍り 好み好き不連続 (源朝光)

反貧困絆を「ネット」に政治代ゆ (源朝光)

時事川柳を募集

県労連青年部 ☆X'masパーティーを開催☆

12月17日、県労連青年部が恒例となる「クリスマスパーティー」を開催しました。9組織から37名が参加し、クイズ大会などで組織を超えた交流を行いました。



窪川原発闘争の教訓②

窪田 和教

原発利益共同体、ベタゴンの言葉が有名になりましたが、相手側のリール運動も少しも激しく田舎の住民には想像を超えるものでした。

リール選挙期間のさなかの2月二十八日には、当時の科学技術庁長官の中川一郎さんが窪川駅で、中内知事と一緒に「みんながいなくなる原発立地に手をあげた日本一の町長」と藤戸町長の手を上げました。翌日には自民の桜内義雄幹事長が渡部恒三当分の電源立地推進本部事務局局長山口淑子議員、リコーランと言っても今は分かる人が少ないですが、民主党の和田耕作議員、政府の役人を連れてきて藤戸町長を激励会に came 来た。「おみやげを持って来た。予土線を残す」と言っていた。露骨な利益誘導をしました。国鉄は輸送密度四〇〇〇人未満は廃止する、と言っており予土線の対象路線でした。窪川と宇和島間ですが、予土線が残ったのは、沿線の道路整備が遅れていたため、桜内幹事長の天の声だけではなかったようです。中内知事は

はリール運動を「ぶすの」に七回も窪川に来たそうですが、「発言を聞いて、予土線を残す」と発言を聞いて、「会場は割れるような拍手が起き、マスマシも書いた。これでリールをぶすせた」と思ったと振り返っています。

全国から、沖縄電力を除いて電力会社の社員が動員されて、全戸訪問をしてリールつづしをしました。私も宣伝カーですれ違ったときは怒鳴り合いがあったし、電力会社の社員が民青同盟の女性の顔をなぐる事件もおきました。

原発推進勢力に大きな打撃を与えました。中内知事は著書「県庁わが人生」の中で、「藤戸町長の解職が決まって、記者の問いかけにも声がでなかった。不覚にも涙がにじんだ」と書いています。赤旗は「桜内幹事長は大野国民運動本部長らと党本部で開票を見守った。結果がでると、黒星かこぶやいた。党幹部が地方の選挙を見守るのは異例」と書いています。これを見ても、自民党がいかに力を入れていたかが分かります。八〇年初めの自民党幹事長といえ絶対的な権力を持った人物です。それが、窪川に自分を引き連れてきて、開票結果を見守るなど異例中の異例ではないでしょうか。

四電は数年前からの「四〇〇〇人近」町民を視察旅行に招待していました。相手は「リール直前まで行っていましたが、わずかに四カ月あまりの運動でストップをかけることができた。その後の出直し町長選挙では、原発推進の藤戸町長の返り咲きを許しました。これは、「ふるさと会」の主張だった「原発立地には町民の意思を問う住民投票をおこなえ」というのを、藤戸氏が「学習会を開き、立地は住民投票で決める」と町長選挙の公約にして、「原発は争点でない」として選挙をやったことが原因です。

原発闘争で、町民が賛成、反対で対立しました。葬式でも推進派と反対派は分かれて座る、とか、家族で田んぼで仕事をしていた言い争いになって、兄貴が鎌を持って、弟が鎌をもつてにらみ合い母親が泣いて止めたなどの話が聞かれるようになりました。原発闘争が特に激しかった興津では、神社のお祭りでけんかか起きるといって、で長く中止になっていました。町民対立は激しく、「もうあんん思いをするのはいや」と今でも言います。こうしたなかで、リール成立は

何のときもそうでしょうが、計画が表面化したときは、話の大部分が終わっているものです。中内知事の本のなかで、「藤戸町長の立地可能性調査の申し入れを受けた四電の動きは美にはさかぬた」「正直なところ腹を決めたかかってた」とあります。すでに、四電、県の担当部、町の有力者が原発立地の絵を書き、話を詰めていたことが伺えます。

その後八年あまりの長たたいでしたが、町議選で推進、反対の議会勢力を伯仲させたことが、断念させる大きな力になりました。町長を辞任に追い込んだ一つの原因は、推進派の議員が「予算に反対する」と意志表示したことで原発推進関連予算が通らなくなるとためです。この議員は、電気店を経営していて「窪川に原発を持つてきた人、四電との窓口だった人物です。唐突だったことは、中内知事は著書の中で「地元の名馬県議も辞任を知らなかった。一緒に進めてきた県は次の手立てをたれば、いままの原発との決別だった」と悔しさをにじませています。



講演会の様子

私は放射能汚染と今どう向き合うか
十一月十六日、人権啓発センターにおいて、国民大運動など五団体の共催で、「放射能汚染とどう向き合うのか」と題して学習講演会を開催しました。

講師は全国反核医師の会世話人などを務める菅根康夫氏。具体的な数値を元に、チェルノブイリ事故と福島第一原発の事故を比較し、放射能が人体に与える影響について医師の立場から講演を行いました。

質疑では、実際に東京都から非難してきた方などから「東京に安全な場所はあるのか」となご、目に見えない放射能に対する不安や内部被曝についての質問が寄せられました。

春闘討論集会

高知県労連は、十一月十七日に「二〇一二年春闘討論集会」を高知城ホールで開催しました。日本銀行高知支店の野原強支店長が「日本経済、高知県経済の現状と課題」と題して講演。田口書記長が「春闘方針（素案）」を提案。六十四名が参加しました。

日銀高知支店長が講演

野原氏は、豊富な資料を使いながらヨーロッパの金融不安、日本の国内の景気動向を分析。東日本大震災の影響から立ち直りつつあった景気が、ヨーロッパの信用不安で弱含んでいる、と分析。

日本経済は「L」状態にあるが、日本企業の経営姿勢は経営効率化に向けており、これでは人件費低下・デフレ・円高の悪環境になると説明。グローバル市場における需要を取り込み、イノベーションを通じて先行利益を追求すべきだと述べました。

高齢化と人口減少を背景に縮小傾向にある高知県経済については、戦略的ポジションの明確化が必要として成長産業の育成、循環型経済の確立、新しい交流の活発化の三点を指摘しました。

十二春闘は政治春闘

続いて田口書記長が、二〇一二年春闘は「政治春闘」になると概略以下の提起を行いました。

春闘の四課題 ①TPP参加、②消費税の引き上げ・社会保障の改善、③原発再稼働、④米軍普天間基地の移設、のどれを取ってもすんなりとは動かない。国会は三月末から止まり、五月以降は政局になる。

政治的にこれを打開する道が問われる。民・自の大連立で中央突破する声が財界筋きめ浮上するだろう。しかし、その過程で分裂・政党再編が起きる可能性がある。四課題を国民的な立場で打開する共同がどう広がるかがカギ。

四課題で地域宣伝を

二月段階に県下各地域で四課題での宣伝行動を強める。根底にあるのは「構造改革路線」。この路線を変えするためには、「貧困の可視化」の取り組みが決定的に重要。公務員攻撃が、悪政の「隠れ蓑」になっている。国民の生活困窮と鬱積した感情を一本当の原因からそらす役割を果たしている。「公務員ハンティング」の解消をめざす。「引きこもり」春闘ではなく、「目に見え・音に聞こえる春闘」「職場労働者が元気になる春闘」をめざす。

各地域の春闘討論集会は、地域の民主諸団体にも呼びかけて開催する。共同の宣伝も工夫する。四課題での宣伝・共同を地域から築く。

安心社会の実現を

人間らしい労働と社会保障による「安心社会の実現」の運動をすすめる。言葉を変えれば、「九九％のための社会の実現運動」。

職場課題では、安心社会の一つの柱である人間らし労働と呼び込め、底上げ要求（時給千円・日額

会談を開催

クリスマスイブの二十四日、高知市帯屋町のグリーンロードでくらしあつたか村などで相談会が開催されました。

実行委員会は、県労連と傘下の県国公、年金者組合をはじめ、新婦人、高商連、高知県民医連、うろこの会（多重債務の被害者の会）、高知市生健会、ネットホップ（ホームレスの支援組織）など十二団体が参加しています。今回も弁護士、司法書士、四国労働金庫の協力を得ました。スタッフは一〇〇名を越え、衣料品や食料品、炊飯器などを持ってきてくれる方



開会式の様子

七千五百円、月額十六万円以上と引き上げ要求（誰でも時間給百円・月額一万元以上）の二本柱とする。これに加え、職場の安全衛生委員会活動の強化（職場の多忙化が組合活動の困難の原因の一つ。委員会活動で実態を明らかにして突破口を作る）と職場の南海地震対策に力を入れる。

経営分析、企業・産業政策活動にも積極的に取り組み、短期の視点と中長期の視点での要求と運動を構築する。労使協議会をリードする気概と能力が必要。

組織拡大の三つの視点

組織拡大・強化では、三つの視点 ①理念提示型拡大、②三つの近い（年齢、席、好み）による拡大、③職場の世話役活動の再構築（三つの柱：相談活動、全労連・産別共済、労金活動）を提起してきた。組織強化では、県労連として組合員教育の体系化に着手している。また、職場活動の活性化の討議資料も提起している。

一月二十二日の中央委員会で春闘方針を正式決定する予定です。

今回も高知県、高知市の後援を得て、高知市やローワークの窓口チラシを置き、県の労働政策課のホームページに相談会のリンクを張ってもらいました。今回は、高知新聞に地域限定で折り込みを行いました。多くの方々に相談窓口の存在を知ってほしいの思いからです。二〇〇九年から始めた取り組み。今年は、土佐清水、須崎市、高知市、香美市、安芸市と広がりました。連帯の輪も年々広がっています。各実行委員会加盟団体の日への取り組みを日常的に「なげていく工夫も必要となつていきます。